

短報 Short Report

「県央に自然史博物館がやってくる!？」シンポジウムと
オオサンショウウオ・エコミュージアム・ツアーへの
参加者アンケートの結果

浅野敏久¹

Results of the participant questionnaire for the symposium and giant salamander tour at the
Hiroshima University Museum's "Natural history museum is coming to the KEN-OU central
prefecture region!?" exhibition

Toshihisa ASANO

要旨：広島大学総合博物館では、2022年夏に企画展「県央に自然史博物館がやってくる!？」を東広島市の豊栄支所で開催した。その反省と今後の展望を考えるシンポジウムを2023年2月に行った。シンポジウムへの参加と合わせて、オオサンショウウオ保護施設の見学を行うエコミュージアム・ツアーを行った。エコミュージアム・ツアーは2019年より行っており、その都度情報収集を図っている。本報告は、この時の参加者アンケート結果をまとめたものである。

参加者の多くは、オオサンショウウオの実物を見ることを求めてエコミュージアム・ツアーに参加しており、その機会は一定の集客力を有する。ツアーを通じて、参加者はオオサンショウウオ問題への理解を深めている。プロジェクトに地元の高校生が関わっていることは好意的に評価されており、学習施設としての「オオサンショウウオの宿」や学習教材としてのオオサンショウウオへの期待は高い。一方、観光利用については、いくつかの課題が指摘された。

エコミュージアム・ツアーは好意的に評価されている。しかし、参加費について、希望する参加費と実際の費用との間には乖離がある。ただし、その差は参加人数を増やせば解消可能な差である。今後、受け入れ人数を増やせる体制を整えるとともに、マーケティングが鍵となる。

キーワード：参加者アンケート、エコミュージアム・ツアー、豊栄地区、東広島市

Abstract: In the summer of 2022, the Hiroshima University Museum held a special exhibition titled "Natural History Museum is Coming to the KEN-OU central prefecture region!?" A symposium was held in February 2023 at Toyosaka region of the central Hiroshima prefecture (KEN-OU region) to reflect on the exhibition and consider its future prospects. In addition to participating in the symposium, the participants took an eco-museum tour to observe the giant salamander conservation facility. Eco-museum tours by the Hiroshima University Museum have been held several times a year since 2019, and information has been collected each time. This report summarizes the results of the participant questionnaire of this tour in 5th February 2023.

Based on the results of the questionnaire, we gathered that many of the respondents participated in the tour to see the giant salamander and deepened their understanding of giant salamander conservation issues. The involvement of local high school students in the project was favorably evaluated, and expectations for the educational aspect of the giant salamander were high. Concerns regarding tourism use were noted by some questionnaire respondents. Interest in the giant salamander conservation facility is expected to generate increased interest in the Toyosaka region.

Overall, the eco-museum tour was highly rated by participants. However, there was a gap noted between the desired participation fee and the actual cost. However, this difference could be eliminated by increasing the number of participants. In the future, the museum should focus on marketing to increase the number of visitors to the museum and its facilities.

Keywords: Participant questionnaire, Eco-museum tour, Toyosaka district, Higashihiroshima city

I. はじめに

広島大学総合博物館では、2022年夏に企画展「県央に自然史博物館がやってくる!？」を東広島市の豊栄支所で開催した（主催：広島大学総合博物館、後援：東広島市・東広島市教育委員会）。この企画展は、オオサンショウウオの保護活動をはじめ東広島エコミュージアムを展開している広島大学総合博物館と、過疎・高齢化の進む市北部の振興を図りたい東広島市が協働して取り組んでいる事業の一環として行われた。市北部地域への自然史博物館機能の導入、地域の教育環境の充実、第3の学び場¹⁾づくり、移住者の受け入れ促進、支所の空きスペースの活用、オオサンショウウオ保護の促進、エコミュージアム活動の展開など、さまざまな思惑を背景に、この企画展はTGO事業²⁾の1つとして開催されることになった。このような背景があることから、次年度以降に事業を継続するかどうかを検討する必要があり、関係者間で情報共有や議論を行うのは当然として、広く事業の狙いや実績を市民に伝え、その意見などを聞く機会を設けることも望まれた。そこで、企画展の反省と今後の展望を考えるシンポジウムが、市長の臨席のもとで2023年2月に開かれた。

一方、広島大学総合博物館では、2019年より東広島市内でエコミュージアム・ツアーを企画・実施している。エコミュージアム・ツアーとは、地域をまるごと博物館とみなすエコミュージアムにおいて、地域内に散在する自然・文化遺産を結びつける手段として提供される、学びに力点をおいた見学会のことを指す（浅野編、2023）。エコミュージアム研究の観点からエコミュージアム・ツアーをとらえると、広い面積のエコミュージアムにおける「サテライト」の関連づけの方法や、「発見の小径」や「エコミュージアム・ガイド」の創出や活かし方を、実践を通じて模索する試みとして、現時点では位置づけている。そして、この度のシンポジウムに関連して、シンポジウムへの参加を組み込んだ近隣地域のエコミュージアム・ツアーを行った。具体的には、シンポジウムへの参加と合わせて、牧場（トム・ミルクファーム）の訪問やオオサンショウウオ保護施設の見学を行うものであった。エコミュージアム・ツアーでは実施に際して毎回情報収集を図ってきた。本報告は、この時の参加者アンケートの結果をまとめたものである³⁾。なお、シンポジウムの来場者アンケートは、東広島市と広島大学総合博物館の協働で別途行われており、別途公表する機会があると思われる。本報告はあくまでもエコミュージアム・ツアー参加者へのアンケート調査の結果である。

なお、本稿では東広島市豊栄町のことを豊栄地区と表記する。アンケートでは豊栄町という名称を使って質問しているので掲載する図表では豊栄町の表記も併用する。どちらも同じ地域を指している。

II 調査方法

調査は、google フォームに作成した回答用サイトの URL を参加者 30 名（回答者 29 名）に電子メールで送信するとともに、移動用バスの車内で、サイトの URL の QR コードを印刷した紙を配り、いずれかの方法でサイトにアクセスして回答してもらった。エコミュージアム・ツアーの行程の最後に入力するための時間を 10 分程度とり、入力に専念してもらった。質問の項目は表 1 に記した通りで、回答者の属性を問うたほか、シンポジウム、オオサンショウウオ保護施設、豊栄地区への関心、シンポジウムについての意見、オオサンショウウオの保護活動についての意見、エコミュージアム・ツアーについての意見などについて質問した。質問は選択式を中心としつつ、一部は自由記述形式とした。後述する通り、参加した客層は博物館の活動への参加経験者などが多く偏りがあるので、本調査で集めたデータは、一般性があるとはいえず、参加者の意見をまとめたものにすぎない。それでもこのようなデータを積み重ねながら、エコミュージアム・ツアーの社会実装を進めているわけで、その意味では有益な情報となっており、他地域で同種の活動の参考にもなると考えている。

なお、エコミュージアム・ツアーの日程や経費については以下の通りである。

■日程：2023年2月5日（日）

08：45 広島大学総合科学部集合・出発

10：00～12：00 豊栄支所：シンポジウム「県央地域の現在（いま）と未来」

○基調講演：「県央地域の活性化について」高垣廣徳（東広島市長）

○テーマ1：「地域・自治体・大学が協働したオオサンショウウオの保護活動とエコミュージアムの可能性」清水則雄（広島大学総合博物館准教授）

○テーマ2：「県央に自然史博物館がやってくる!？」展からみた県央地域の活性化」中坪孝之（広島大学総合博物館長）

○パネルディスカッション

12：20～13：50 トムミルクファーム（観光牧場）

○昼食

○牧場の見学、ヤギ等とのふれあい、新鮮な牛乳や

表1 アンケートの質問項目

問番号	質問文（選択肢は省略）
Q1	豊栄町を訪れたのは何回目ですか（通過しただけは含みません）。
Q2	あなたの性別を選んでください。
Q3	あなたの年齢層を選んでください。
Q4	今回参加した動機は何ですか。あてはまるものを2つまで選んでチェックしてください。
Q5	見学会に参加して「県央の自然史博物館」への関心は高まりましたか。
Q6	見学会に参加してオオサンショウウオへの関心は高まりましたか。
Q7	見学会に参加して豊栄町への関心は高まりましたか。
Q8	シンポジウムでもっとも興味をひいた話はなんですか。
Q9	シンポジウムに参加して、どのようなことを思いましたか。ご意見をお書きください。
Q10	「オオサンショウウオの宿」を見学して、もっとも興味・関心を抱いたことは何ですか。あてはまるものを2つまで選んでチェックしてください。
Q11	オオサンショウウオは地域活性化に役立つと思いますか。
Q12	オオサンショウウオは環境学習や郷土学習の教材として有効だと思いますか。
Q13	オオサンショウウオの交雑種問題について何かご意見があればお書きください。
Q14	「オオサンショウウオの宿」の活かし方について何かご意見があればお書きください。
Q15	今回の見学会は、東広島エコミュージアムのエコミュージアム・ツアーの1つとして行っています。このような見学会についてどう思いますか。
Q16	今回のような大学周辺の地域を回る見学会を有料で行うとしたら、いくらまでなら参加してもいいですか。なお、参加費は、交通費と食費、ガイド等への謝金などの経費を補填することを目的とて徴収するとしてます。
Q17	今回の企画を何で知りましたか。

注：アンケートは google フォームを用いて行なった。

ジェラートの飲食など、牧場体験

○牧場長のお話

14：00～16：00 オオサンショウウオの宿

○保護されているオオサンショウウオ（在来種、交雑種、外来種）を間近に見学

16：15 道の駅福富

17：30 広島大学総合科学部着

■参加者：30名（回答者29名）

■費用：借り上げバス代（公費）：訳56,600円

施設使用料（トムミルクファーム）：4,000円

食費（各自負担 1,000円程度、一部参加者は弁当持参）

保険（計1,125円）

※モニターツアーとして行っているのので、バス代、施設使用料、保険代については主催者が負担。

Ⅲ 回答結果

1) 参加者の属性

今回の参加者は30名で回答者は29名であった。回答者の属性として、10代が4名（13.8%）、20代が14名（48.3%）、30代が1名（3.4%）、40代が2名（6.9%）、50代以上が5名（17.2%）であった。学生を中心に声をかけたために10代・20代が多い。性別

は、男性が17名（58.6%）、女性が11名（37.9%）であった。いずれも括弧内の構成割合は無回答があるので合計は100%とならない。

豊栄地区への訪問回数を尋ねた結果は、図1の通りであり、はじめてがもっとも多く、12名で41.3%を占めたが、6回以上も10名（34.5%）と2番目に多くなった。これまでのエコミュージアム・ツアーの実績と比して、豊栄地区を訪れたことのある参加者が多かった。その理由としては、広島大学総合博物館が行うエコミュージアム・ツアーにこれ以前に参加したことのあるリピーターや、この時以前に企画展に参加したことがある人が改めて参加した例も複数あったことなどによる。豊栄地区にすでに来たことがあって

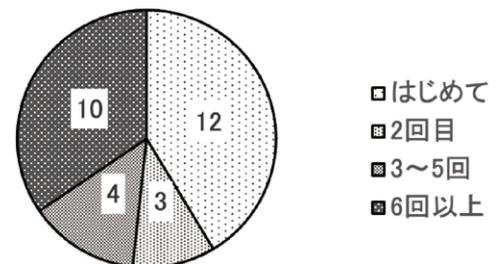


図1 豊栄地区の訪問回数
(数字は回答者数, N=29)

も、今回はオオサンショウウオ保護施設である「オオサンショウウオの宿」を訪れ、オオサンショウウオの実物を見ることが予定されており、オオサンショウウオの実物を目にするができる機会を求めてエコミュージアム・ツアーに参加したと考えられる。

2) 企画を知ったきっかけ

「今回の企画を何で知りましたか」という質問に対して、教員や博物館スタッフからの案内で参加した者がほとんどであった(図2)。2022年度に実施した3回のエコミュージアム・ツアー(今回分を除く)に参加した30人宛や、博物館のボランティアスタッフなどが入っているメールリスト宛(55人対象)に、参加を呼び掛ける電子メールを送っており、それに応じた人がもっとも多かった。参加経験者がリピーターとして応じたことは、すでに参加したことのあるエコミュージアム・ツアーが面白かったと評価している結果だと考えることができる。一度エコミュージアム・ツアーに参加すると、その後別件を案内しても、リ

ピーターとなってくれることが確認できた。

次いで、メールではなく教員や博物館スタッフから対面で紹介された人が参加している。メールに応じた方が回答数では多いが、それは母数の違いであり、対面で声をかけた人数は多くても10人程度なので、誘われて参加した割合で考えれば、対面で誘われた方が確実に参加につながっている。参加を促す手段としてのクチコミの効果は大きい。

3) 参加動機

シンポジウムへの参加を前面に出して参加者を募集したものであったが、教員や博物館スタッフからの案内で参加した者がほとんどであった(図2)。そのため、市役所や豊栄支所からの声掛けなどにより、まちづくりや小中学校・高等学校の今後に関心をもつ人が集まったと考えられるシンポジウム会場でのアンケート結果とは、回答の傾向が異なる可能性が高い。

動機として、教員や友人に誘われたから試しに来たという参加者は少なく、シンポジウムにせよ、オオサ

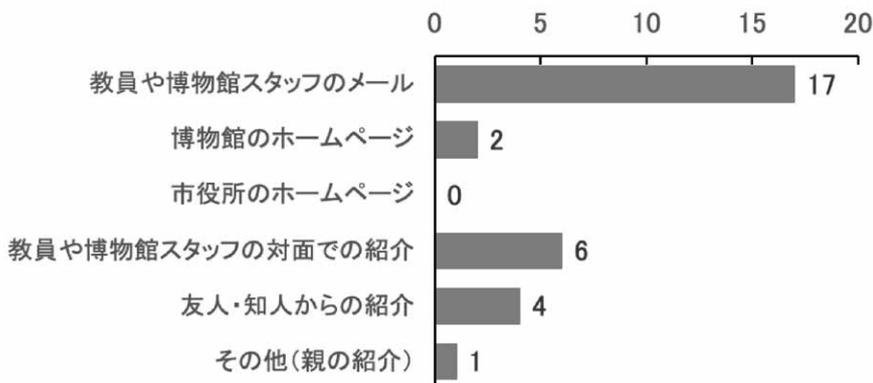


図2 企画を何で知ったか(複数回答可, 数字は回答者数, N=29)

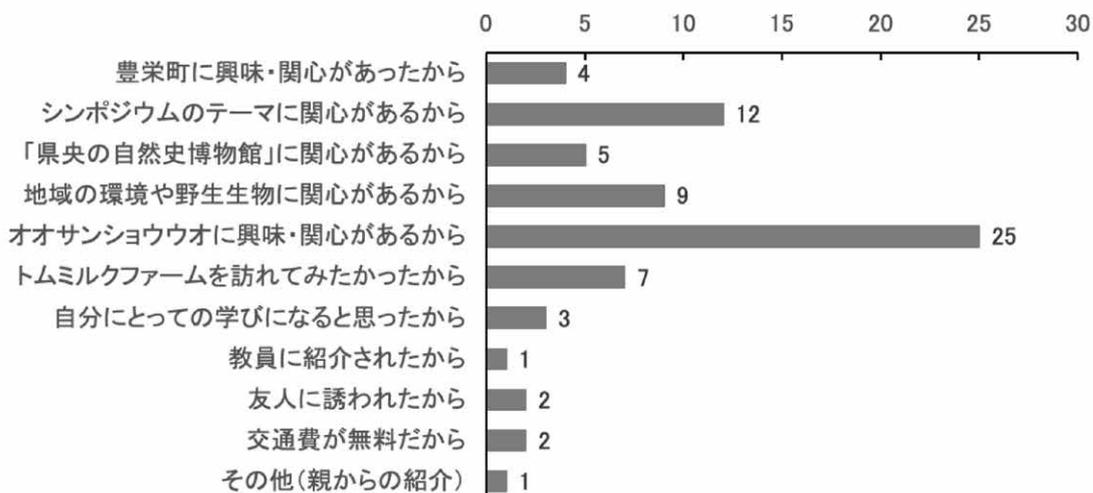


図3 参加動機(複数回答可, 数字は回答者数, N=29)

ンショウウオにせよ、対象に関心があって参加している。特にオオサンショウウオに興味・関心がある人が29人中、25人となっており、エコミュージアム・ツアー参加者については、オオサンショウウオの見学がシンポジウムへの参加を促したと考えられる(図3)。

4) 県央の自然史博物館・オオサンショウウオ・豊栄地区への関心の変化

いずれも関心が高まったという回答が圧倒的に多い

が、県央の自然史博物館(図4)、オオサンショウウオ(図5)、豊栄地区(図6)の3つを比べると、関心を高めた順は、オオサンショウウオ、自然史博物館、豊栄地区となる。オオサンショウウオへの関心が、自然史博物館への関心を呼び、さらに豊栄地区への関心も高めるという道筋が描けるのであれば、現在取り組んでいるオオサンショウウオの保護活動や教育・普及活動の地域への波及効果を認められることになる。今後、確認するための調査を行うことが望まれる。

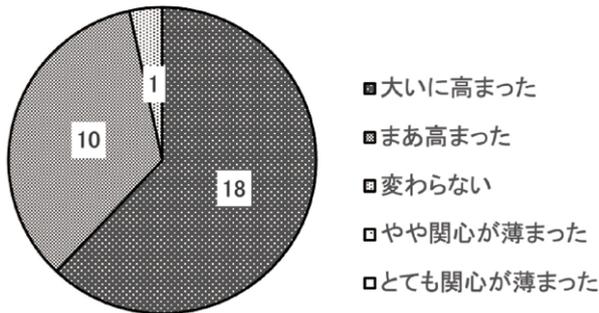


図4 県央の自然史博物館への関心は高まったか
(数字は回答者数, N=29)

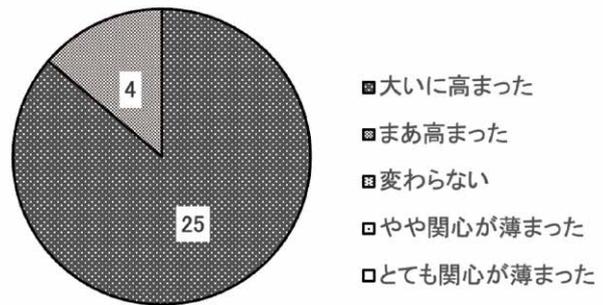


図5 オオサンショウウオへの関心は高まったか
(数字は回答者数, N=29)

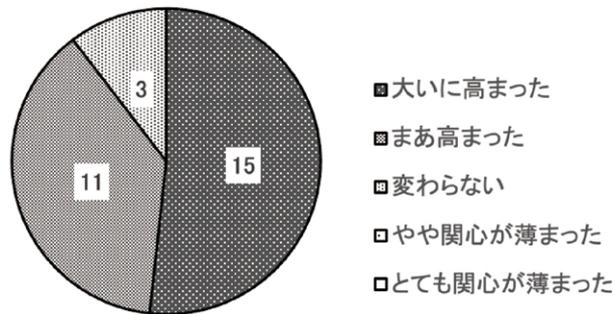


図6 豊栄地区への関心は高まったか
(数字は回答者数, N=29)

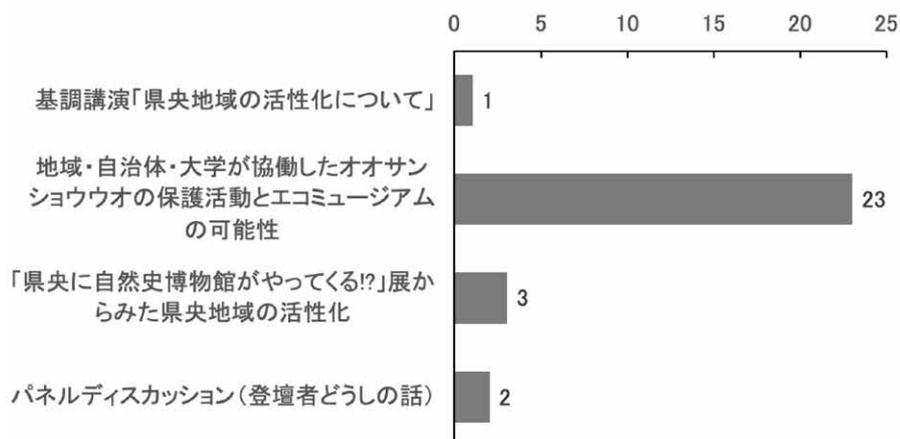


図7 シンポジウムでもっとも興味をひいた話はなにか(数字は回答者数, N=29)

5) シンポジウムでもっとも興味をひいた話題

参加動機を含め、上述しているとおり、今回のエコミュージアム・ツアー参加者の主たる関心はオオサンショウウオだったので、興味をひいた話もオオサンショウウオ関連の報告であった（図7）。

6) シンポジウムの感想

シンポジウムの感想を自由記述形式で記入してもらった（表2）。それを大まかに分類すると、地域の魅力や地域づくりに関する事、自然史博物館や学芸員の活動に関する事、オオサンショウウオの保護と活用に関する事、大学の地域貢献に関する事に整理できる。豊栄地区などが直面している過疎問題や、それに大学が教育から関わろうとしていることは好意的に受け入れられている。オオサンショウウオへの関

心の高さは自由記述でも示されており、それは単に保護だけではなく、活用面への期待もあることが確認された。オオサンショウウオへの関心が地域への関心につながっていることが読み取れる。

7) オオサンショウウオの宿で興味・関心を抱いたこと

実物（在来種）を見ることのインパクトは大きい（図8）。これを見るためにエコミュージアム・ツアーに参加した人が多かったわけで、その期待には応えられたといえるだろう。また、高校生が飼育や管理などの活動に参加していることや、大学と行政、地域の連携などの体制についても興味を持たれている。一方で、回答では選択肢がなかったが、現場で参加者から指摘されたこととして、施設が貧弱であるとの意見があった。限られた資源でやりくりしていることを評価

表2 シンポジウムに参加した感想（自由記述）

分類	書き込まれた意見
地域の魅力や地域づくり	同じ東広島市内でも、全く異なる様相の県央地域について知ることが出来てよかった。
	東広島市と大学の連携、過疎化への対策を考えられていると改めて思いました。
	東広島市の魅力を感じ、卒業後も定住を考えるようになった。
	自分の地元（高知黒潮町）と似ていて、人口が減り、自然だけが取り柄の町でどのように盛り上げていくのか、今後も参考にしたいと思った。
	全国でも類をみない地域活性化の取り組み。
	色々な立場の人が地域維持のためにも教育に関心を持っている。
	普通の田舎は新しいことや大学のように知的なものに対して好意的ではないことが多いのに対し、豊栄は博物館作りや広大との連携に積極的であるのが凄いいことだと思った。
	次の世代につなげる為には今の世代が動かないといけないとおしえてもらった。
自然史博物館・学芸員活動	博物館と学芸員の役割は大切な要だと感じました。オオサンショウウオから、ほかの野生動物、植物、林業まで知が広がることを期待します。
	エコミュージアムに関して様々な人がそれぞれの観点から盛り上げようとしていることを知った。特に館長の話が良かった。
	東広島市の循環型社会にとっても、またエコミュージアムのコアとしても県央自然史博物館が果たす役割はとても大きいと感じた。
オオサンショウウオの保護・活用	オオサンショウウオ以外の野生動物にも着目して売り出したい。
	オオサンショウウオ保護と地域の間には密接な連携が必要であること。
	オオサンショウウオでも交雑が起きてしまっており、極めて重要な課題であると感じた。
	オオサンショウウオについて、知らないことはとても多いと感じた。
	オオサンショウウオのグッズを増やしたい。
	県央地域の過疎化がオオサンショウウオ保護活動の減少に影響を与えていると知り、東広島市に限ったことではなく、私の故郷でも考えられることだと思いました。今回日本各地の先行事例となるようなオオサンショウウオに関する活動を知ることができてよかったです。
大学の地域貢献	生物の保護と地域活性化には若い力が必要と感じた。
	広大は地域と密着した活動をしているんだなと思った。
その他	県央の魅力発信には、県央以外の人の視点も必要である。また、東広島市内には広島大学があるため、大学機関を通して多くの研究と企画を行うことができると思った。
	時間が短いこともあってか、パネルディスカッションはあまり意義を感じられなかった。

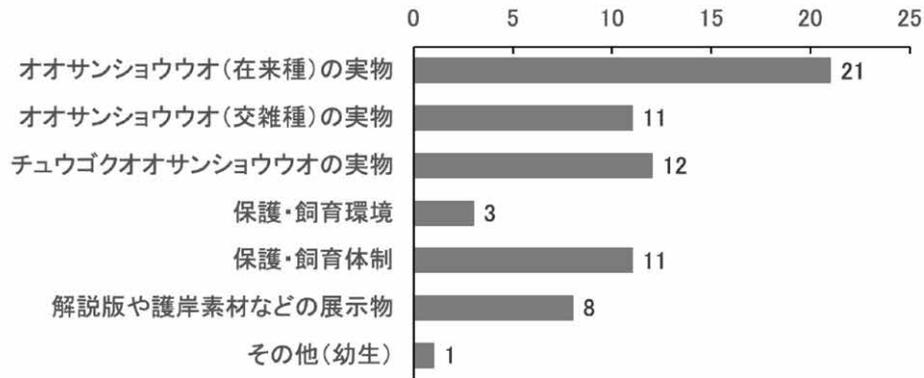


図8 「オオサンショウウオの宿」への興味・関心(複数回答可, 数字は回答者数, N=29)

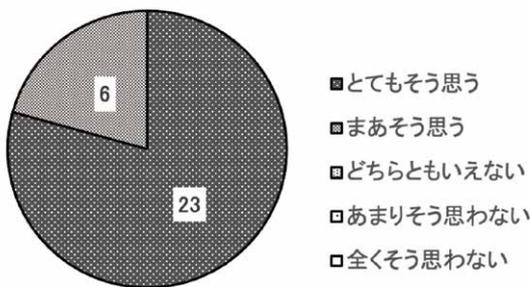


図9 オオサンショウウオは地域活性化に役立つか
(数字は回答者数, N=29)

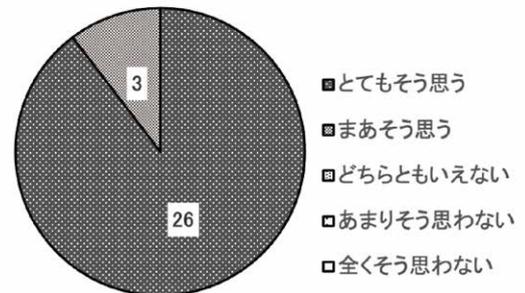


図10 オオサンショウウオは環境学習や郷土学習の
教材として有効か(数字は回答者数, N=29)

するというよりは、保護をするにしても、教育や観光を意識した展示環境としても、現状の施設では不十分だという感想をもたれている。

8) オオサンショウウオと地域活性化

「オオサンショウウオは地域活性化に役立つか」(図9)と「オオサンショウウオは環境教育や郷土学習の教材として有効か」(図10)のそれぞれの問いに対して、とても有効だとの回答が大半を占め、否定的な回答はなかった。オオサンショウウオは教育的な観点から地域活性化にも役立つと評価されるといえそうである。

9) オオサンショウウオの交雑種問題についての意見

オオサンショウウオの交雑種問題について自由記述で意見を書いてもらった(表3)。記述内容は、対応の必要性、対応方法、法律・制度、地域との関係などに分けられる。エコミュージアム・ツアーに参加して、オオサンショウウオの交雑種問題についての情報を得ることで、それへの対応の必要性や、対応の仕方、そのための制度の見直しについての意見を書いて

もらえるようになっている。良くも悪くも地域と関わりがあることへの気づきも認められ、今回のような市民向けの情報発信を続けていくことで、問題への理解を促していくことができると考えられる。

10) 「オオサンショウウオの宿」の活かし方についての意見

オオサンショウウオの保護施設である「オオサンショウウオの宿」の活かし方についての意見を自由記述で記入してもらった(表4)。教育や観光面での利用についてのコメントが同じ程度の数で寄せられている。地元の高校生が関わっていることは好意的に評価されており、学習施設としての「オオサンショウウオの宿」への期待は高いといえよう。一方、観光面での利用については、常時公開されていないことや施設が貧弱なこと、グッズなどへの展開がないことなど、課題を示されている。また、情報発信に努めるべきとの意見もあった。

表3 オオサンショウウオの交雑種問題についての意見（自由記述）

分類	書き込まれた意見
対応の必要性	在来種の保存は大事。
	交雑種問題は深刻だと思う。いまの交雑種が繁殖しないように、早急に交雑種に対する対応が必要であると思う。広島県でも2022年に交雑種が初めて発見され、京都等東側の地域から、西側の地域へ交雑種が入り込んでいる。
	オオサンショウウオの宿でお話を聞く前は、長いスパンで見たら交雑種ができることもあるだろうと思っていましたが、日本のオオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオはライオンとタイガーくらい違うという話を聞いてそれぞれに適した生息環境や特徴があり、生物の多様性を守る必要があるのだと分かりました。
	生物を勉強している者としてはオオサンショウウオの交雑種問題は種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性の全てがおかされることだと分かるので、解決策が見つかることを祈る。
	実物を見てみるとその違いがよくわかった。特に今が交雑化に歯止めをかける大事な時期だと知り驚いた。
対応方法	シラミ潰ししか方法がないのか気になった。
	食べることを考えたいです。
	なるべく交雑種を駆除できるとよい。
	生物を学ぶ者として遺伝子問題がいかに深刻かは理解しているが、何より一度交雑が起きた川では在来種を隔離するしか確実な遺伝子保存の方法はないかも知れないと思った。そんな中で、保全活動に取り組んでいる方々はすごいと思った。
	(ハイブリッドF1の駆除が法的に可能になったことが前提として)市民が積極的に駆除活動に参加しつつ、誤って在来種を駆除することのないように、交雑種の見分け方に関する検索表やチャートの普及が進むべきだと考えている。
法律・制度	交雑種の生殺与奪を詳しく定めた法律の制定を進める。
	交雑種が外来種として認められて、オオサンショウウオの生態系が保護される体系ができてほしいと強く感じた。
地域との関係	オオサンショウウオに関する、地域の人々の理解が必要だと思った。
	河川間の移動(隣の河川など)への移動が基本的に不可能なはずのオオサンショウウオの交雑種が距離的に離れた河川で次々に見つかっていることは、人為的な影響が強く感じられた。
その他	もう少し調べてみたいと思います。
	難しい。
	難しい問題だと思った。
	かなり押さえ込みは難しいだろうけど、頑張してほしい。

11) エコミュージアム・ツアーについての評価

企画のたびにエコミュージアム・ツアーへの今後の参加意向があることを確認できているが、今回もそのニーズを確認できた(図11)。問題は参加費である。

「今回のような大学周辺の地域を回る見学会を有料で行うとしたら、いくらまでなら参加してもいいですか?」なお、参加費は、交通費と食費、ガイド等への謝金などの経費を補填することを目的とて徴収するとします」の質問への結果を、過去の例とともに表5に示す。今回、食費を含めると実費は1人あたり3,058円だった(食費は現地で各自支払いだった)。アンケートの結果を、実費であれば気にしないという回答者を除いて、大まかに計算する((1000円×7人+2000円×10人+3000円×4人+5000円×2人+

3200円×5人)÷(29-5)人)と、1人あたり2,042円となる。この結果は実費である3,058円を下回っているが、これまでコロナ禍中に行ってきたモニターツアーの結果と比べると差が最も少ない結果となった。その理由としては、謝金を経費に組み込まず費用を抑えたことに加え、コロナの規制が緩まったことで参加人数を増やすことができたことが大きい。モニターツアーではない実費を回収できる見学会を実施するためには、十分な参加人数を確保できるかが鍵となる。なお、経費に謝金を組み込まないことは、エコミュージアム・ツアーを継続的に実施する上では問題だと企画者としては認識している。

表4 「オオサンショウウオの宿」の活かし方についての意見（自由記述）

分類	書き込まれた意見
施設・管理 方法等	保護個体が常にいる状態がよいのか、悪いのか、今後の方針が気になった。
	想像より小さかった。
	ハイブリットの意味を分かりやすくおしえたほうがいい。
教育	高校生に続いて、中学生も活躍してほしい。
	学習ツアーを作る
	西条の人たち（小学生など）に学校行事として行く
	オオサンショウウオは夜行性なので、県内の小、中、高校、その他関心のある大人の方とオオサンショウウオ合宿を行い、夜、実際に野生で生息しているオオサンショウウオの観察会をする。
	今回、案内してくれた高校生の方々は、この研究や観察の成果を発表したりしてますか？ 全国に誇れる観察だともうので…
	2種（+交雑種）のオオサンショウウオが見られるというアドバンテージを活かし、実物の比較をするための学習施設としても機能すると思う。
観光	一般見学可能な観光施設。
	ポケモン go のポケストップにする。
	グッズ販売がほしい。
	ほんとうに人間が泊まれるようにする。
	いいアイデアの施設だとは思ったが、一般の方を呼ぶにはこのままではシンプルだと思った。グッズとか売っても良いのでは？
観光客も訪れることができたらいいだろうなと思います。	
情報発信	「オオサンショウウオの宿」があることを今回初めて知ったので、もっと情報を発信するべきだと感じた。
その他	素晴らしい取り組みだと思いました。
	素晴らしい取り組み

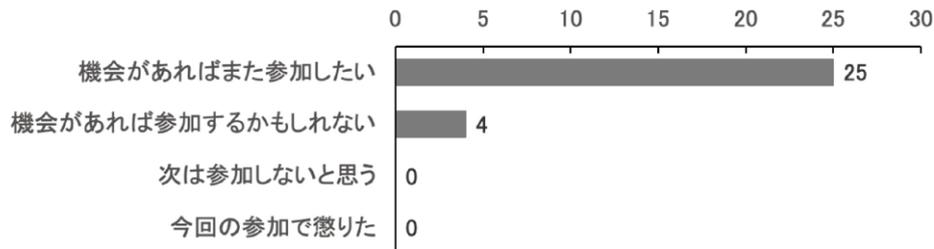


図11 今回のような見学会（エコミュージアム・ツアー）をどう思うか（数字は回答者数、N=29）

表5 支払い可能な参加費と実際の単価

	福富 2021年11月実施	安芸津 2022年3月実施	久井・世羅 2022年6月実施	今回 2023年2月実施
有料なら参加しない	0	0	0	1
1,000円未満	5	2	5	7
2,000円未満	5	3	3	10
3,000円未満	0	2	5	4
5,000円未満	0	1	1	2
7,000円未満	0	0	0	0
実費であれば気にしない	1	2	3	5
参加人数（回答者数）（人）	11（11）	12（10）	18（17）	30（29）
実際の1人あたり単価（円）	8,865	9,845	3,968	3,058
支払い可能な参加費（円）	1,500	2,375	2,214	2,042

注：実費について、借上バス代、弁当代、謝金、施設使用料、保険代を基本とし、福富と安芸津では、現地での解説者への謝金を組み込んでいる。今回分以外の3例のデータは、浅野ほか（2023）の表4を転記している。支払い可能な参加費は、今回分を例にすると（0円×1人+1000円×7人+2000円×10人+3000円×4人+5000円×2人+7000円×0人）÷（29-5人）として計算している。他の3例も同様である。

IV. おわりに

本報告は、これまで断続的に行ってきた広島大学総合博物館のエコミュージアム・ツアーの1つとして実施した見学会への参加者を対象としたアンケート調査の結果である。教員や博物館スタッフからの案内で参加した者がほとんどであり、調査対象者が少なく、属性的に偏りがある。しかし、企画のたびにデータをとることで、東広島エコミュージアムにおいて、エコミュージアム・ツアーを実施していく上で有益な情報を得ることにつながっている。

結果を簡単にまとめると、今回の参加者の多くは、オオサンショウウオの実物を目にすることができる機会を求めてエコミュージアム・ツアーに参加しており、リピーターも複数参加していた。オオサンショウウオの実物を見るという機会は一定の集客力を有するといえる。そして、アンケートの結果からは、参加者の期待に応えられていることが確認できた。加えて、エコミュージアム・ツアーに参加することで、オオサンショウウオが直面している問題についての理解を深めることにつながっており、今回のような情報発信を続ける意義を確認できた。オオサンショウウオの飼育や観察に地元の高校生が関わっていることは好意的に評価されており、学習施設としての「オオサンショウウオの宿」や学習教材としてのオオサンショウウオへの期待は高い。一方、観光利用については、常時公開されていないことや、施設が貧弱なこと、グッズへの展開がないことなど、課題が指摘されている。

オオサンショウウオへの関心が、自然史博物館への関心と呼び、さらに豊栄地区への関心も高めるという道筋が期待できそうである。少なくとも、オオサンショウウオへの関心が地域への関心につながっていることが読み取れた。

最後に、今後のエコミュージアム・ツアーへの参加意向が確認でき、参加者は満足したととらえることが

できる。しかし、参加費について、支払ってもよいとする金額と実際の経費との間には依然として乖離が認められた。ただし、今回の結果は、その差は参加人数を増やせば解消可能な差であることが確認できた。今後、大型バス1台程度の人数を受け入れられるようなプログラムや実施体制を整えるとともに、参加者を募集する広報ルートの開発が鍵となると考えられる。

注

- 1) 自宅や職場・学校ではない、心安やかにくつろげる場所をオルデンバーグ(2013)はサード・プレイス(第3の居場所)として、現代社会において重要であるとした。子どもの教育・学習においても、家でも学校でもない地域での学びの機会や場所は大切で、それを「第3の学び場」とする。
- 2) 広島大学と東広島市は、持続的な地域の発展と大学の進化をめざしたTown & Gown構想を共有し、地域課題の解決に資する事業などを行うことにしている(2021年にTown & Gown Office設置)。TGO事業はこの趣旨に沿った事業で、市からの予算的支援を受けられる。
- 3) ツアーは、新型コロナウイルス感染拡大にともなう諸々の制限がある中で、現時点ではモニターツアーとして行い、調査の記録を残している。過去のものについては浅野編(2023)や浅野ほか(2023)にまとめている。

文献

- 浅野敏久編(2023):『エコミュージアムと大学博物館』丸善出版。
- 浅野敏久・清水則雄・菊地直樹(2023):エコミュージアム・ツアーの意義と課題, エコミュージアム研究, 28, 40-49.
- オルデンバーグ, R. 著, 忠平美幸訳(2013):『サード・プレイス』みすず書房。

(2023年8月31日受付)

(2023年12月6日受理)